

タイ皆既日食報告

齋藤 佳秀

今回、理大天研OB隊の一隊として、私を含めた平林 光・鈴木 隆・永井 節・竹内利幸・牧野 純・白川 健一、それに91年メキシコ日食に参加した柘島奈津子の計8名で、タイのバックルダにおいて皆既日食の観測を行った。（このメンバーで、平林・永井・白川の3氏は初の皆既体験）

当初、独立で隊を組む計画をたてたが、すでにバス等の移動手段が、すべて日本の大手旅行会社に押さえられていたため、鈴木氏の手配により、東急観光と誠報社のタイアップツアーのBコースに便乗した。またこのツアーのCコース（ナコンサワにて観測）には、若手？OB隊の本田智之君らのメンバーがおり、旅行中に何度か顔を合わせる事となった。幸い、日食当日は晴天に恵まれ、無事にコロナを拝むことが出来た。

<日食まで>

10月22日(日)10:55 成田発JAL直通便で、タイのバンコクに15:05（-2時間の時差）到着した。この日の夕食と宿泊は、バンコク市内の南のはずれにあるメナムホテルであった。このホテルは、チャオ・プラーヤ川の岸辺に建っており、川には餌付けされた、なますがいた。20バーツで餌となるパンを売っていて、パンを買って投げ入れると、体長60cm近くのなますが数百匹群がって餌を奪い合う。ただアゼン！

翌23日は、ホテルから船で暁の寺院を見物した後、バスでアユタヤの古い寺院を見る。タイの仏像の顔は、そこらのすけべおやじか、おかまの兄ちゃんの顔にしか見えないのは、私だけだろうか？ここで本田君一行に出会う。今年は、10年に1度と言う大洪水だそうで、あたり一面水浸して湖と化しており、道路も一部冠水していた。バスでナコーン・ラッチャシマのホテルに向かう途中に、観測地であるバックルダの小学校の校庭を下見する。地平線まで見渡せる視界こそないが、観測には十分な広さで、ここでGPSで緯度経度の測定を行った。この日の宿泊のシマタニホテルは、町一番のうわさにたがわず、吹き抜け構造の豪華なホテルであった。この夜、明日の快晴を願って、シンハービールで乾杯をした。

<皆既日食>

24日は、早朝バスにて、約30km離れた観測地に向かう、今日まではずっとピーカンであったが、雲が出始めた。現地につくと全天の8割近くが、薄い雲におおわれていた。一堂がっかりするが、皆既まで3時間以上あると気を取り直して、機材を組立てる。フジテレビが取材に来ており、隣のグループに話を聞いている。まわりでは、欠けた欠けたと騒ぎ始めるが、我々はほとんど太陽も見ずに、機材の調整を行う。幸い第二接触がちかづくにつれ、雲が減り始め、

皆既30分前ちかくには、雲は3割以下になる。よっぽどの不運でもなければ大丈夫だろう。ただ上空に非常に薄い絹雲のような雲があり、写真への影響が気がかりだ。本影錐に注意しているが、あまり判然としない。そして、いよいよ第二接触、なぜかシャドーバンドは、淡くてほとんど見えない。10時52分、大中小と並ぶ3つのダイヤモンドをつけたリングは、そのダイヤモンドの光を失うと同時に、ひかり輝く鳥の翼となった。典型的な極小期のコロナである。

カメラのシャッターを切っていくうちに、頭が真っ白になっていく。シャッターを何枚切ったのか分からなくなりながらも、撮影を終え、双眼鏡を覗くと、なぜかピントがあってない。何とかピントを合わせると、ダイヤモンドリング？ひゅー！あとで解ったことだが、時間短縮のため1枚ずつと決めた、1.2、4s露出を、3枚ずつ撮っていた。とほほ... こうして、全員無事に皆既日食を拝むことができ、すぐに大成功を祝してビールで乾杯！（こればっか）みんな大満足！（1人だけちょっと不満）、大感激！しかし、この後大きな落とし穴があった。タイ名物の大渋滞である。実に8時間半もバスで移動して、すっかりみんなへろへろになってしまった。

25日以降は、観光と相成ったが、紙面の都合上割愛する。結局、旅行中若干1名が、下痢性の腹痛で、現地の病院へ行くハプニングが起きたが、大事にはいならず、全員無事に、28日6時25分成田に到着した。

<観測成果>

コロナの微細構造撮影は、PENTAX 75 mm鏡筒+1.4 倍リアコンバータで焦点距離700 mm相当にし、PENTAX 645カメラを取り付けフジのプロヴィアで、1/1000~4sまで、各2枚撮影した。結果は、ピントがやや甘く、上空の薄雲の影響で、長い露出のコマにハロが生じたが、まずまずの、美しい出来映えであった。（天気：晴・階級：3）

皆既日食の拡大ビデオ撮影は、カメラレンズのNikon 85mm F1.8とNikon 200mm F4にCCDカメラを取り付け、セレクトターで切り替える方法を取った。ゴーストが少し気になるが、ダイヤモンドリング、そしてコロナと、満足のいく美しい映像となった。

ソニーのデジタルビデオ VX-1000による、コロナの高解析ビデオにもトライしたが、残念ながら輝度がオーバー気味になってしまった。

竹内氏自作の大判(4×5 inch)全天カメラもまた露出オーバー気味の仕上がりで、本影錐をはっきりと捉えられなかった。（今回の日食は予想以上に明るかったのか？）

また、シャドーバンドのビデオ撮影も行ったが、全く写ってなかった。（肉眼でも、見えなかったから、しかたないか...）

今回の観測は、すべて成功という訳には行かなかったが、8名と言う少ないメンバーの割には、十分満足のいく成果であった。